
平成 26 年

3 月の普及活動状況

ダイジェスト版

～県下 10 農林事務所農業普及課と農業経営課技術支援係の取組～



岐阜県農政部農業経営課

活力ある新産地づくり

郡上農林 ■ 夏秋いちご 産地の拡大を模索

農業普及課では次年度の生産に向けて夏秋いちごの産地戦略会議を開催した。

当日は、生産組合の代表をはじめ、JA、市役所の担当者らが一堂に会し、夏の高温対策や県オリジナル品種の育成状況、規格外品の新たな販売ルートの確保、新規就農者の確保について活発に意見を交わした。

4月中旬には定植が始まることから、栽培改善に向けた新たな実証ほの設置などに取り組んでいくとともに、随時関係者間の連携を深め産地拡大を推進していく。



【会議風景】

下呂農林 ■ スイートコーン 産地振興プロジェクト推進委員会を設立

下呂市では、昨秋より市、JA、県によりスイートコーンの産地化に向けた協議を行い、3月18日に生産者及び農産物直売所設置者を加えた産地化の推進母体となる「下呂市スイートコーン産地振興プロジェクト推進委員会」を設立した。

推進委員会では、農業普及課から設立の目的、活動内容や規約等について説明を行い、委員長に下呂市農林部長が選任された。また、生産拡大、販路拡大等のプロジェクト活動からなる「下呂市スイートコーン産地振興プロジェクト」について農業普及課から説明を行い、内容について意見交換が行われた。



【推進委員会設立会議】

今後は、生産者の技術交流促進に向けた研究会の立ち上げ、作期拡大等各種実証ほの設置を行っていく。

売れる農畜産物づくり

郡上農林 ■ 水稻 良食味米生産への取組みが続々と

国の米政策が見直される中、郡上市内で良食味米生産に向けた動きが活発化している。

1月30日と3月6日に大和町にある「郡上旬彩館やまとの朝市」、2月28日に八幡町内の良質米生産者の会、3月7日に明宝小川地区の営農組合会合において、郡上市やJAと協力の下、米の食味向上研修会を開催した。

郡上市農業アドバイザーからは、昨年、米・食味分析鑑定コンクール国際大会で入賞した白鳥町の「六ノ里棚田米」の取組みが紹介され、これに準じた栽培技術の説明が行われた。



【郡上のコシヒカリ】

農業普及課では、平成26年度に良食味生産を目的に実証ほを設置し、食味向上と郡上米のブランド化をさらに進めていくことにしている。

西濃農林 ■ トマト 海津トマト部会女性部目揃会と支部研修の開催

3月4日に、海津トマト部会女性部目揃会が開催され、検査担当者から出荷規格について説明があった。特に、昨年は5月以降の高温により、軟果等の品質低下が多かったことから、収穫果の着色を的確に変更することにより、品質維持を図るよう確認された。

農業普及課からは、気候変動の大きい3月の栽培管理の注意点について説明した。また、各5支部の中間検討会が随時開催されるため、高温対策を中心に研修を行う予定である。

揖斐農林 ■ 茶 関西茶品評会上位入賞を目指した取組み

平成27年に揖斐川町で開催される第68回関西茶業振興大会品評会において一等一席の農林

水産大臣賞獲得を目指し、生産者、関係機関が一体となった取組みが始まっている。

揖斐川町では3月14日、(農)桂茶生産組合において揖斐農林事務所主催による現地検討会を開催した。当日は組合理事、関係機関が出品予定茶園を巡回し、生育状況等を確認した。室内検討では今後の取組み、栽培管理、摘採計画について検討が行われた。今後、本年秋までに5回の検討会が計画されており、平成27年度に向けたサポートを続けていく。

池田町では3月17日、4生産組合、関係機関からなる推進協議会を設立した。今後、出品予定茶園を特定して適切な栽培管理、手摘み、加工研修などにより出品茶づくりを推進していく計画である。

農業普及課ではモデル展示ほ場の設置、摘採期前進・品質向上技術の実証等により出品茶づくりを支援していく。



【池田町：推進協議会設立総会の様子】



【揖斐川町：出品予定茶園の生育状況について検討】

可茂農林 ■ 茶 **新規整備園で茶苗定植**

白川町内では、白川茶産地の生産基盤強化を図るために、茶園の集約化や茶園整備を推進している。

管理作業者の負担軽減や機械導入に対応できるように急傾斜地茶園の傾斜を緩和する茶園整備を行っており、今年度の茶園整備はほぼ終了した。

農業普及課は、新規整備園が早期に成園化されるように栽培管理支援を行っている。3月21日に白川町内の新規整備園において茶苗定植講習会を開催し、定植方法や定植後の管理について説明した。また、新規整備園を巡回し、定植やその後の管理について指導を行っており、今後も幼木園の早期成園化を支援していく。



【新規整備園の茶苗定植】

恵那農林 ■ シクラメン **1年間の活動を踏まえ次年度活動方向を整理！**

中津川市・恵那市等のシクラメン生産者は、3月4日に本年度最後のシクラメン勉強会を開催し、この1年間の品質向上の取り組みや産地PR活動を振り返り、次年度の方向性の整理を行った。

農業普及課は、シクラメンモニター販売、生花小売店との交流や恵那農校と明知鉄道とコラボレーションした「恵那のシクラメン学校列車」などの産地PRの活動支援を通じて知名度向上に結びついてきたことを報告し、次年度は産地ビジョンの策定に向けた支援を行っていくこととした。

会員からは燃油価格が高騰し、燃油使用量削減に向けた取り組みに高い関心を示し、木質バイオマスなどの代替エネルギーが活用できるのかを検討していくこととなった。

農業普及課では、シクラメン勉強会等の活動支援を通して、恵那管内の花き産地の活性化に向けた支援を行ってきた。次年度は花き関係の指導体制が見直されるが、継続的に支援を行う予定である。



【シクラメン勉強会の様子】

農業経営課 ■ ゼラニウム **岐阜県オリジナル品目の試作出荷始まる**

岐阜県の鉢物生産者で組織する岐阜花き流通センター農協では、大手育種会社等と連携し、優位販売のための仕組みづくりに取り組んでいる。菊（ポットマム）、ゼラニウム、スパティフィラムの3品目を対象に各試作者による部会を立ち上げ、試験研究機関、普及指導員、農業革新支援専門員等も参加し、定期的な研究会を開催している。



【目揃研修会の様子】

